

番組審議委員会議事録

松竹ブロードキャスティング 株式会社

- 1.開催年月日 平成 30 年 12 月 4 日（火） 12：00～13：40
- 2.開催場所 銀座東武ホテル
- 3.委員の出席 委員総数 7 名
出席委員数 6 名（伊藤信太郎、堀江ミエ子、松本淳、松本行央
太田博、植草信和）
欠席委員数 1 名（坂田藤十郎）
- 4.放送事業者側出席 5 名（井田寛：代表取締役社長、藤本弘之：取締役・営業担当、
松倉浩二：取締役・編成・宣伝担当、鶴澤由紀：
衛星劇場部・部長、磯本亜未：ホームドラマチ
ャンネル部・課長）
- 5.議事の概要
 - ・ 経営報告
 - ・ 営業報告
 - ・ 衛星劇場の現状報告
 - ・ ホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・ 質疑応答
- 6.議事内容
 - 経営報告
 - ・ 2018 年も厳しいマーケット状況が続く中、有料放送事業が停滞している。市場の規模は年々縮小傾向にある。
 - ・ 10 月に CS110 度において念願の HD 化が出来た。
 - ・ ここ数年は放送事業だけでは厳しいので、e スポーツというジャンルを新規事

業として始めている。そのイベントである“第1回 EVO Japan”を今年の1月に開催。来場者は1万名を超え、参加者は7,000名以上、そのうち海外からの参加者は3,000名弱とかなり盛況なイベントであった。配信では1,000万を超える視聴があった。今後も大きな大会にしていきたい。2019年はゲーム都市宣言をしている福岡で開催。

- ・シニア・ナビは営業権を獲得。アクティブシニアの活動の場になっている。いろいろな切り口のコミュニティーサイトを立ち上げ、Web事業の柱にしていきたい。またイベントも開催し、活発なコミュニケーションを取ってもらおう。
- ・これからは衛星事業だけではなく、エンターテインメント企業として様々な発信をしていきたい。

○営業報告

- ・有料放送事業のマーケットは、相変わらず厳しい状況が続いている。スカパーは減少、ケーブルルートは横ばいか減少の傾向にある。新規のお客様を獲得することが非常に難しい時代になってきている。
- ・衛星劇場は、まだまだ引きの高い韓流を中心に、加入獲得キャンペーンの実施や、試写会などを行うことでチャンネルの価値をより高めることにより、加入獲得や解約防止に努めている。そのような中、10～11月に実施したJ:COMのキャンペーンでは、多くの加入者を獲得できた。まだまだやり方によっては加入が取れるので、今後も様々な施策を行い、加入獲得に繋げたい。
- ・ホームドラマチャンネルは、視聴可能世帯数500万を目指しているが、現状あと3万件弱まできている。今期中にはなんとか目標をクリアしたい。
- ・広告営業は、CS業界全体が厳しい状況に置かれており、ホームドラマチャンネルも今期は予算の達成が難しい見通しだが、引き続きチャンネルを支える大きな収入源となっている。

○衛星劇場チャンネル

- ・アニメと洋画に押されていた映画界だが、今年は「万引き家族」「劇場版コード・ブルー」「カメラを止めるな」などにより邦画の勢いが盛り返した年であった。そんな中、衛星劇場が製作・出資した「鈴木家の嘘」は東京国際映画祭やヨコハマ映画祭において、作品賞、新人監督賞、最優秀新人賞などを獲得するという結果を残すことが出来た。
- ・今年もプレミアチャンネルである“衛星劇場でしか観ることのできない作品

“をテーマに編成を行った。

- ・邦画、韓流、舞台の 3 本柱を中心に編成。韓流は大きな柱。日本初放送の韓国ドラマを放送することで差別化をはかっている。韓国でヒットしたいい作品を衛星劇場で初放送するように獲得に努め、視聴者からも一定の評価を頂いた。
- ・10 月からのスカパー！HD 化により、舞台と映画は高画質で映像を見られるようになりお客様の満足度は上がった。まず新作歌舞伎としてインド叙事詩「マハーバーラタ戦記」や年末年始の 55 時間一挙放送、1 月の坂東玉三郎さんの特集をするなど、HD 化したことを生かし、110 度でより多くのお客様に舞台を楽しんで頂けるように努めている。
- ・映画では、今年 2 月から川島雄三特集を放送してきたが、10 月に松竹時代のキャッチアップ一挙放送を実施。また西城秀樹特集、中 3 トリオ、70 年代アイドルの映画を放送することで、新たな視聴者を開拓している。
- ・中国ドラマは、勢いがありクオリティも高くなってきたことから、今年 3 月には 1 枠から 2 枠へと増やし、多くの方にご加入を頂いた。
- ・出資関連では、今までは映画や韓国ドラマに出資してきたが、国内ドラマに出資することで下期のホームドラマチャンネルでの品揃えを増やすことに貢献している。

○ホームドラマチャンネル

- ・韓国ドラマ、時代劇、国内ドラマの 3 本柱の基本方針は変えずに編成。
- ・時代劇は、「鬼平・剣客・必殺」シリーズをレギュラーで放送。
- ・国内ドラマは前の期までは CS 初放送を中心に編成を行っていたが、購入も難しくなってきたので、旧作の大ヒット視聴率ドラマを編成することで、宣伝面ではかなり露出することが出来、新作でなくても視聴率と加入が取れることが分かった。
- ・また華流は現代劇を中心に年間 7 本の日本初放送をしていく。昔から編成しているので固定のファンもついているジャンルである。現代劇中心なので、ラブコメのテーストが強いが、韓流人気には及んでいない。
- ・編成をしていく中で新しい 3 つの取り組みを始めた。
 - 1.加入者獲得の強化。4 月のプロ野球開幕に合わせ、視聴者層にあった編成をした。4 月のアイドル特集で加入を大きく伸ばすことが出来た。また夏休みにはフェスに合わせて K-POP 特集、秋の夜長のサスペンス特集では松本清張作品を 110 時間編成。4 月のアイドル特集ほどの加入にはつながらなかったが、加入きっかけには上がってきた特集となった。また出資ドラマの放送に絡め

て名古屋エリアで人気の“BOYS AND MEN”特集を編成。コアなファンの獲得に向けての施策を展開。

2.一挙放送による視聴率の獲得。年末年始、ゴールデンウィークに特別編成を実施。「鬼平犯科帳」「剣客商売」「釣りバカ日誌」を一挙放送することで視聴率を取ることが出来た。10月の改編に合わせ、池波正太郎原作時代劇作品を2日間連続放送も行った。

3.改編。視聴率を上げることが目的。具体的には今まで韓国ドラマは1話進行だったが、視聴者の要望を受けて全ての作品2話以上の進行に。時代劇では週末に「鬼平」「剣客」のレギュラー枠を設けた。そして国内ドラマでは、日曜の昼に4話一挙放送枠の作品の調達を強化した。

・ケーブルテレビでの視聴率は、昨年より少し順位は上がったが、一番良かった頃には届いていない。今後はそこを目指して編成していきたい。

○質疑応答

Q：放送と配信の境目はなくなっているのか？

A：配信をテレビで見ることが出来るようにしているところも増えてきている。弊社は放送権を買ってビジネスとしているので勝手に配信すること現状は出来ない。今後はそのあたりをクリアしていくために、契約の内容を変えていく必要があるだろう。

Q：70年代アイドルの作品とあったが、新御三家以外だとどのような作品を放送予定か？

A：男性では新御三家をメインに、女性は天地真理や桜田淳子出演作品を放送する予定。

以上